地球惑星科学委員会
地球惑星科学人材育成分科会高等教育検討小委員会
（第25期・第３回）

全国地球惑星系学科長・専攻長・会議 合同開催

議　事　要　旨

１．日　時　　令和５年６月２日（木）17:00～18:37

２．会　場　　遠隔会議

（以下敬称略・順不同）

委員会出席者：堀利栄（愛媛大学）、掛川武（東北大地学）、西弘嗣（福井県立）、久家慶子（京都大）、佐々木晶（阪大）、小嶋智（岐阜大）、佐藤　薫（東大）、山形俊男（JAMSTEC)、川幡穂高（早稲田大）、張　勁(富山大）、田近英一（東大地惑）、西山忠男(熊本大学)、佃 榮吉(産業技術総合研究所)

オブザーバー参加者：[全国地球惑星系 学科長・専攻長会議メンバー] 22 名

村山泰啓（国立研究開発法人情報通信研究機構・日本学術会議連携会員）

高橋幸弘(北大、JpGU）、春山成子（三重大・日本学術会議会員）、佐竹健治（日本学術会議会員）、三枝信子（日本学術会議会員）

3. 議　題

（１）高等教育における最近の動向（話題提供）

村山　泰啓連携会員（国立研究開発法人情報通信研究機構 NICT ナレッジハブ研究 統括・ナレッジハブ長）より「学術のあり方・政策動向と、大学教育の視点からみた人工知能・AI 利用の議 論（試論）」と題して話題提供があり、最近のオープンサイエンスの動向や IT 行政に関わる進展と、現在の生成 AI に関わる問題点や教育に導入する際の課題や、国内大学の生成 AI 利用に係る取組などが紹介された（資料１）。その後、東京大学の杉田精司専攻長から東京大学の生成 AI 関する学生へのアナウンスなど、取組の先行事例紹介や、掛川連携会員から東北大学の取組が紹介された。

（２）学科長・専攻長アンケート調査結果報告（西会員が紹介）（資料２）

本会議に先立ち５月末締め切りの Google Form を用いたアンケートを実施した結果が報告され、議論が交わされた。今回のアンケートでは、毎年の質問項目に加え、コロナ感染拡大時における大学教育への影響についての質問集計結果も紹介された。コロナ対応による大学教育への影響は、特に実験・実習で顕著であり、また教育の質の低下を招いたと回答した大学が多数であった。また、大学改組による影響や、地球惑星系教員の減少問題、国際化による問題点等が示されると共に、教育学部における地学教員養成課程の存続問題などが議論された。加えて、アンケートに記述された日本学術会議への要望なども示され、来期の意見発出（見解等）に向けて準備を進めていく事が示された。

（３）　その他

堀会員から、地球惑星科学が学べる大学案内 HP（JpGU）へのご協力のお願いとして、次世代育成の一環として、JpGU ダイバーシティ推進委員会が中高生向けに整備してい

る「地球惑星科学が学べる大学・研究室へ」の情報提供の協力が関係専攻長・学科長に呼びかけられた（資料３）。

最後に、地球惑星科学委員会委員長の田近会員をはじめ、オブザーバー参加の委員のJpGU 高橋会長や春山会員から関係各界における次世代教育への取組の紹介があった。

4. 配布資料

資料１：「学術のあり方・政策動向と、大学教育の視点からみた人工知能・AI 利用の議論（試論）」

資料２：地球惑星科学が学べる大学案内 HP へのご協力のお願い